

## ①法政大学教育課程センター 尾木直樹教授

尾木教授によると日本の教育の遅れは非常に深刻だそうです。日本政府は世界的に教育にかける費用が少なく教育が家庭の役目になっています。教育実習の期間も短く、日本はおよそ2～3週間ですが

世界で最も教育が進んでいるオランダはおよそ4カ月もあります。長い期間の実習によって実際に教員になった場合、本当に続けていけるのかを判断させることができるです。

2013年のOECD(経済協力開発機構)では、日本の教員の部活動における労働時間は世界平均の3倍を上回っていると発表されました。部活動に割かれる時間により教材研究・保護者への対応が十分にできていません。私も日本の学校は部活動を教員に任せすぎていると思います。海外の学校は外部コーチが部活動に携わることが多く、教員の仕事とはあまり考えられていないそうです。

また、日本の学力の方向性は世界と大幅に異なっています。日本は学年主義と言われ、その学年で習うことができなくても進学できてしまいます。(義務教育課程の場合)それに対して欧米や中国は習得主義と言われ、その学年で習うことができなければ進学できません。驚くことに習得主義の国では、留年してでもしっかり学力を定着させてから進学すべきだと考えられており、留年を恥とはとらえていないのです。中では自ら留年させてほしいと申し出る生徒もいるようです。尾木教授の話聞いて、日本に飛び級・留年制度がなく学年主義であることは教育の遅れの大きな原因なのではないかと感じました。

日本と世界の教育の違いは多いです。例えば、日中以外の国々では高校入試がありません。これは欧米諸国を筆頭に学校が中高一貫制度をとっているからです。高校入試では点数を取ることだけが求められるので、海外では必要だとは考えられていません。また、ヨーロッパでは高校を卒業できる能力＝大学進学の特権であり、実際にヨーロッパの高校に通ってなくても、試験を受けて高校卒業と同等の点数がとれば、ヨーロッパの大学に進学できます。点数は大学によって異なり、難関大学はやはり高い点数が求められます。

短い時間ではありましたが、世界的な考えでの日本の教育に関するお話を聞いたのは初めてだったのでとても勉強になりました。教育は国の政策の影響を受けやすく、簡単に改善できるものではない奥深いものだと実感しました。

## ②OB・OG との対談

最初に対談したOGの方からは、「まわりの目を気にせず、自分の進路のために頑張してほしい」と言われました。そのOGの方は毎日、放課後は必ず塾の自習室で勉強してから帰っていたそうです。その成果もあり、テストでは10位くらいをとっていたとおっしゃっていました。特に、「まわりの目を気にせず」という言葉が印象に残りました。周囲の人の勉強量に合わせず、自分の限界まで意志を持ってやるのが大切なのだと感じました。

OBの方は、自分が高校時代に実践していた英語の勉強法を教えてくださいました。私は英語が苦手なのでとても嬉しく思いました。それは、一週間かけて200単語を先取りするという勉強法です。OBの方からは一週間かけて同じ単語をやるのが大切だと言われました。もう覚えたからとすぐに単語を変えたら知識が定着していないまま新しい知識が入ってくるからです。単語を理解しているか否かによって、文章を読解する速さにも差がでます。何より、単語が分かっていないと予習にもかなり時間がかかってしまいます。私にとって、200単語はハードルが高いのもう少し少ない単語から始めようと思います。

今回いらっしゃった OB・OG の方々は東京で生活しているため、「地元を出て、一から新しい生活を始めるのは本当に大変だった。家族のありがたみを感じるきっかけになった。」という声が多かったです。しかし、「色々な人と出会えて世界が広がる。毎日が新鮮だ。」ともおっしゃっていました。皆さんがそれぞれ自分の体験談を詳しく話してくださったので、非常に参考になりました。また、大学生活のイメージも掴むことができ、モチベーションを高める機会になりました。自分の受験勉強で行き詰ったときは今回の対談を思い出して、自分の糧にしたいです。

### ③ 笹川平和財団理事長 田中伸男さんの講演

田中さんが以前まで事務局長を務めていた国際エネルギー機関(IEA)は、石油市場での異常を世界に発信する機関です。ニクソン元大統領の補佐であるニッキー・キッセンジャー氏が創立しました。石油市場での異常すなわち石油価格の上下は OPEC との関係が大きいです。しかし、アメリカは中東の石油にはあまり依存していないため OPEC の動きによって国が大きく崩れることはあまりありません。これは、ブラジルからも石油を輸入しているからです。

### ④ 笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォースの方々との対談

ディレクトフォースの藤村峯一さんのお話によると、目安として 2 年ほどの海外駐在のレベルで英語を話せると現地でスムーズにコミュニケーションをとれるそうです。しかし、いくらでも英語は上達するから限界まではなせるようになってほしいとおっしゃっていました。藤村さんはアメリカに 12 年滞在していたそうで、海外での仕事についても教えていただきました。海外での仕事だと、どうしても伝わらないこともあります。そのような時は図や文で表すと効果があると話していました。

日本財団の信氏建人さんは多くの災害支援ボランティアに携わっている方でした。ボランティア活動中は普段通りのリラックスできる何気ない会話を大切にして、ゆっくりと現地の人の信頼を得ることが大切だとおっしゃっていました。地震の被害にあった地域のボランティアで最も多く頼まれる仕事はブルーシート貼りです。これは、雨対策に大いに役立つからです。

笹川平和財団の酒井英次さんからは日本の海洋問題に関するお話を聞きました。海は利害の対立が絶えない場所であるため、国同士で同じ考えを持つ必要があります。海洋問題の解決が難しいのはこのようなことが求められているからです。日本の海は世界で最も生物多様で他国が欲しが理由はたくさんあります。

### ⑤ 東京研修のまとめ

今回の研修でお世話になった方は皆さん知識が豊富でとても驚きました。私が思っていた以上に社会は広く、凄い人がたくさんいるということを感じることができました。皆さん自分の考えをしっかりとっていて、それを相手にわかりやすく伝える語彙力や頭の回転の速さがあり、とても驚きました。